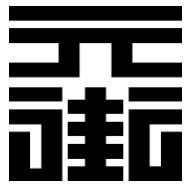


150年間の思いを一つに 元街っ子
~つなげよう! まちへ 世界へ 未来へ~

令和5年10月31日



横浜市立元街小学校



令和5年度 学校だより 11月号

Tel 681-7810 Fax 662-5842

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/motomachi/>

150年の思いを一つに最後までやり切って仲を深めた運動会

校長 工藤雅彦

夕暮れが早くなり、放課後の校庭で遊べる時間も11月からは16時までとなります。いよいよ秋も深まってまいりました。

10月21日(土)、秋晴れの中、創立150周年記念運動会を無事行うことができました。配付用プログラムには150周年記念キャラクター「もまっち」を取り入れた子どもたちの素敵な絵が印刷され、開会式での聖火リレーや4年生演技のエンディングでの「150」の人文字、4年ぶりに復活した全校競技兼横浜山手中華学校の5年生を招待しての交流競技としての大玉送りなど、周年記念イヤーにふさわしい取り組みも行えました。また、順位に関係なく、ゴールまで全力で走り切る各学年の徒競走の姿は立派でした。マスクを付けずに大きな声を出せた応援合戦では、10数年前から歌い継がれる元街小オリジナルの「運動会の歌」の3色の大合唱は圧巻でした。高学年リレーの大逆転や青組の昨年度3位からの優勝旗奪還など、児童会の掲げた「150年の思いを一つに、最後までやり切って仲を深めよう」のスローガンを子どもたちは見事に実践していました。

元街小の運動会では定番となった、5年生のソーラン節、6年生のエイサーは完成度が高く、声も大きく出せたこともやはり大変素晴らしい演技でした。その要因の一つとして昨年度の5・6年生の演技も素晴らしく、その動きや真剣な表情や息遣いは昨年度の運動会で実際に間近で観て感じる事ができたことが大きいのだと思います。映像ではなく、話ではなく、目の前にいる上級生たちの本気の姿を観ること、思いを感じることは、下級生には大きな刺激となって心に残り、「自分たちもあなりたい、超えてみたい。」と目標になるのだと思います。他の学年もそれぞれ同じことが言えたのではないのでしょうか。コロナ禍で3年間十分にできなかった全校行事やたて割り活動、全校集会が再びできるようになってきました。素晴らしい上級生の存在と、それを目指し超えようとする下級生の存在があれば、素晴らしい学校になるはず。この繰り返し絶え間なくできれば、素晴らしい伝統が生まれるのだと思います。

閉会式の「児童代表講評」では、校長の言いたいことを見事に運動会実行委員長長の6年生が上手に優しく語っていました。校長以上に子どもたちに響く上級生の言葉でした。その言葉です。

私は今回運動会実行委員長を務めたことで様々な人が運動会に関わり支えてくれていることを実感しました。児童係・決勝審判・得点係・用具係・放送係・応援団・実行委員会、そして1から4年生の皆さん、たくさんの方が運動会を盛り上げてくれました。また児童だけでなく、保護者の方々、PTAの方々、先生方もたくさんの方の手を借りて踊りを教えてくださったり、アドバイスをしてくださったりしました。本当にありがとうございました。そのおかげで元街小創立150周年の記念の年の運動会をつくり上げ、やり切ることができました。

皆さんが学年を超え、色を超え応援する姿は、運動会をより一層盛り上げ、スローガンを達成することができました。今回の運動会で生まれた皆さんの絆は、運動会が終わった後も日常生活で生かされます。その絆を大切に、これからの学校生活を送りましょう。そして、皆さんの手によって高められていった運動会を、来年も再来年もつくり上げていってください。

6年生実行委員長の言葉と、それを興味深く集中して聴く子どもたちの姿に、集団活動の意義と、あらゆる学習場面における子どもたち自身の互いの認め合い、学び合いによる成長を再確認することができました。